

教育理念	個性の伸展
------	-------

評価基準・・・A:達成できた B:おおむね達成できた C:達成には不十分である D:不十分

分類	観点	評価項目	評価の具体的内容	評	評価の根拠	改善案	
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有ができています。	A	学習指導要領に則した教育課程を編成し、年間計画により単位認定に必要な面接指導時間を十分に確保している。教育課程実施の考え方の徹底については、教頭・教務主任を中心に会議を密にしながら、各教員へ理解を深め、共有している。	面接指導については添削指導のみでは実現できない内容（観察実験や実技、討論等）の一層の充実を図る。日中時間帯は自ら進んで質問に投稿する生徒への対応を行う。レポート作成指導を行い、その他のアクティブラーニングを取り入れた教材の作成・充実を進める。	
		教育目標	生徒の学力・健康面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。	A			
	教職員連携	組織運営	校務分掌や管理体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。	課長・部長を中心とする運営体制の整備を行った。体調不良の職員の業務を分散して職務にあたった。教員及び事務はICTを活用し情報の共有と連携を行い効率化を進めた。	B	私立学校特有の柔軟性を発揮し、世界情勢の変化に臨機応変に対応する体制を整えていき、安定的な運営を目指していく。	
		教員・教科間連携状況	職員間の相互理解がなされ、職員同士の情報共有及び信頼関係が構築され、理想的な教育活動が行われている。	B	また、職員会議の内容を精査し、教員同士の連携を取って生徒の利益につながるような努力を続けている。		
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換が行われており、相互理解及び連携がとれている。	A			
		会議の有効性	職員会議などの共通認識・共通理解の機会、有効かつ効率的に機能している。	A			
	財務事務	財務に関する意識	経営指標と財務状況を理解している。	年に1回以上の頻度で、教職員に対する財務状況等の説明を通して、経営状況に対する教職員の関心・意識の向上を確認した。教職員研修でも本学園の財務状況等を説明する時間を設定し、更に運営や管理への意識の向上を図っている。	A	生徒募集に限らず、全体的なコスト意識を高め、より一層の経営指標への意識向上を図る。また、DX化を進めコスト削減と教育の充実を図る。	
		財務状況の把握	予算・決算の収支状況に関して理解している。	B			
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	事故災害等に関する危機管理は校務分掌にて規定されている。コロナ禍において、集団による防災訓練の実施が見送られていた。個人情報管理についての研修会も定期的に行っている。	B	消防、各公共機関との連携をとり防災教育、研修の充実を図る。また、防災訓練を早期に実施する。	
		安全管理	学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されている。	C			
		危機管理対応	危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	B			
	渉外	生徒募集	学校説明会・オープンキャンパスの実施やWEB、学校案内パンフレットなど効果的な広報を工夫し、内容を充実させている。	在校生は前年度に比べ新入生の割合が増加し、全体数も増加し今後も増加傾向にある。問い合わせ件数も、1.5倍以上増えており、知名度向上が見られた。各地域の学習支援センターと情報交換を行った。	A	中学校、高等学校への学校訪問を行い、認知度向上を図っていく。また本校は低所得者層の家庭が多いため、学費や通学費の支援等の状況を適宜伝える。	
		各教育機関との連携	市町村教育機関への訪問や私学協会と連携した広報活動を実施している。	A			
	教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	A	各担任が電話・eメール・LINE、学校から公式LINEなど様々な方法で丁寧にスクーリング参加を促し、活動性の多くが規定のスクーリングを終了することができた。	出席率の高い科目・時期と低い科目・時期があるので、メリハリのついた開講日・科目設定を行う。
スクーリング内容			各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲を高める授業展開を心がけている。	A	すべての教室にWiFiが整備され、ICTを活用した、インタラクティブ授業の展開ができる。	生徒の満足度を高めるべく各教科で指導内容のさらなる精選を図る。	
レポート内容・添削			レポートが学習成果につながる内容になっている。また、インターネットを活用した添削結果の遅延がないよう、計画的な業務運営を行っている。	A	スクーリング中間期にレポートの学習進捗状況を交付している。また、本年度からはWEBで確認できるシステムを利用し、提出の注意喚起をしている。	単位認定に支障が出ないよう管理職による各教員への添削内容の質向上指導を定期的に行う。またレポートの内容の改善も継続して行う。	
情報発信		ネットの有効活用	本校ホームページ、Google共有ドライブにて、タイムリーな情報提供を行っている。	A	公式LINE、公式メールで更新通知を出して、共有ドライブを通じて、最新の情報を提供している。	職員会議などを通じて教員の、生徒への連絡事項の共有の徹底を図る。	
		生徒・家庭に対する効果的な情報提供	スクーリング中間期にレポートの学習進捗状況を交付している。	A	担任は進捗システムを確認して、生徒の現状を把握している。	p-schoolメール・アカウントを活用して、オンラインで進捗が確認できるように開発をすすめる。	
情報教育		情報リテラシー教育	各種活用能力を向上させる。	B	スマートフォン・タブレットの活用能力が高い生徒が多いが、電子メールの使い方や、TPOを意識したコミュニケーション力が不足している。	教員の情報管理能力・知識の向上に努める。	
		情報モラル指導	情報発信・公開に伴う責任など情報モラル教育を継続する。	A	情報科を中心に情報モラル教育の推進に取り組んでいる。	教員の情報モラルへの認知向上に努め、IT能力に長けた人材の登用を進める。特別活動で情報モラル教育を行う。	
生徒健・進路・指導		生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)を高める。	A	教育の質を確保しながら、生徒利益を優先し、卒業のための補習を実施している。	進路指導部を中心に進路決定率のさらなる向上を目指す取り組みが求められる。
			生活指導について	学校組織を基本に、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識を図る。	A	生徒指導部を中心に教職員全体で取り組んだ。	今後も生徒指導部の方針を各教員に徹底する。
			家庭との連携	計画的かつ適切な連携をとり、充実した学校生活が送れるように支援する。	A	担任の教員は家庭との連携のための努力しており、各分掌も支援している。	保護者の問い合わせ機会の増加による信頼関係の構築、外部専門家の協力が求められる。
	進路指導	キャリア教育	キャリア教育(進路指導)に取組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取り組みを実践する。	A	個別に進学指導・就職指導を行っている。各上級学校のオープンキャンパス参加を促している。	外部講師を招いたり、外部の研修に参加しやすい体制を作る。	
保健指導	健康の保持増進	心身ともに健康であるための支援を行う。	A	健康に関する相談を受け付けた。	保健日よりなど保健室からの積極的な情報発信を図る必要がある。		
その他	教職員研修	資質向上	教職員間で職務内容(生徒対応など)を把握し、意見交換などを行う機会を設定している。	A	職員会議と教頭会をそれぞれ月1回設定し、情報交換を行っている。	通信制課程と全日制課程の間で、共有できる情報について蜜に連携していく必要がある。	
		研修の充実(校内・校外)	教職員が計画的に校内研修に参加できる環境や体制が整備されている。	A	グループ全体の個人情報保護研修に加え、毎月eラーニングによる研修に取り組んでいる。	外部の研修に参加しやすいスケジュールの設定を考える。また外部の講師を招くことも考える必要がある。	
		他校及び関係機関との連携	通信制高校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体として資質の向上を図る。	B	教育支援センターと連携し、学校に対するニーズの把握に努めた。	合同研修を継続し、意見交換を行う。	
	地域との連携	地域行事への参加、経済的貢献。	通信制としての歴史から、地域社会の行事へ参加していく。	C	これまで活動されてこなかったため、新たな関係を模索した。	組織的、計画的に関係形成を進めていく必要がある。	